

行事 共通 対策	換気	窓・扉の開放、送風機導入。送風は一方方向で行い首振りさせない。
	熱中症	夏季の高温・多湿時期の対応を適切に行う。こまめな水分補給と休息。
	消毒液	剣連で用意する？。
	検温	事前に検温をしてから会場に来させる。当日朝高熱（目安37.5度）がある場合は受審を控えさせる。 検温計を剣連で用意する？。
	開場 前 の 対 策	来場者には、個人間の距離を取るよう徹底する。 来場者をグループに分け集合に時間差を設ける。 引率は原則させない。必要なら車中などで待機させる。 引率者の人数を制限する。
審査会	受付	場所・方法を工夫する。
	更衣室	人数制限し指示しながら更衣させる。会話禁止。
	小集団	小集団によるグループ化を図る。
	説明・指示	時間差を設け受審させ、説明指示の隊形では前後左右の間隔を十分確保させる。
	形審査	事前の形講習はなくす。 審査のみ実施する。
		受審者にはマスク着用を義務付ける。 審査員の位置取りを工夫する。
		形の演技は5組を基本として実施する。受審者が多い場合は組数増加は可とする。
		実技審査
	形・ 実 技 共 通	隣の間隔を十分に取らせる。 係は、待機者に指示し所定の位置につかせる。 審査会場は、可能な限り複数面用意する。（審査員・立会は倍の人数を充てる） 施設の確保ができれば、複数日設定し実施する。
挨拶		一組づつ入場させ、横の間隔を十分に取らせ、発声しないで礼をさせる。
試合場		10×10m以上とする。高校生以上は11×11mとする。
交代		選手交代時、チーム内選手同士の声掛け・タッチは厳禁とする。
大会	待機	待機場所は広くし横の間隔を十分確保する。 声援を厳禁する。
	応援者	人数制限する。 応援席は、横は座席を一つ置きに利用させ、前後の列は明けて使用させる。
		当分の間前後左右の距離を十分確保し、身体接触を伴う稽古は控える。
稽古	組数	対人で剣道具着装の場合・・・一試合場2～3組で
	鏢競合い	鏢競合い解消の徹底
	礼式	蹲踞の間合を工夫（間延びしない程度の最大距離で）
	体当たり	体当たり後ただちに打突させる。鏢迫り合いにならない
	発声工夫	気の争いからの打突・一撃の工夫。発声による争いからの脱却。
	打突時	打突部位の呼称は思い切った発声で。気の溜めからの発声を工夫。打突と同時に抜ける

※ 剣道の伝統・特性を守り・生かしつつ、これまでの既成概念にとらわれることなく発想の転換が求められる。  
新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた段階的な稽古内容を工夫する。